

# 4. 名張につたわる

## ことば・うた・あそび

わたしたちの生活の中には、むかしからつたえられてきたものがいろいろあります。どうして今までのこっているのかな。きっと何かわけがありそうだよ。



### 1. 名張のことば

「あれっこわい。おたえらにごつつおをあんばいにこさえてもうて、おおきにやで。」

どんなことをつたえているかわかりますか？

上のことばは「まあ、びっくりした。わたしたちにごちそうをじょうずに作ってくれて、ありがとう。」と言っているのです。さい近ではこのような名張ことばはつかわれることが少なくなりました。

2006（平成18）年「名張のことばでかるたを作る会」の人たちは、「むかしの人びとの生活の中から生まれたちいきのことば（方言）を大切にのこしていきたい。」という思いから、「名張方言かるた」を作りました。

名張の方言	いみ
まくれる	ころぶ
ちびたい	つめたい
～だあこ	～してください
ゆわんといて	言わないで
わんならす	わるくする・こわす
はっちょみとこ	あれやこれや



名張方言かるた

「方言」い外にもつたえていきたいものをさがしてみましよう。


### 2. 名張のうたやおどり

名張では、それぞれの町の夏まつりやぼんおどりなどで、親しまれているうたやおどりがああります。



祭りでおどられる名張音頭

名張音頭は、1930（昭和5）年、参宮急行電鉄（今の近畿日本鉄道）がかい通し、名張えきができたおいわいとしてうたわれたのがはじまりです。その後、1950（昭和25）年に赤目四十八滝が日本かん光地百せんにえらばれたとき、歌しをかえてうたわれ、1964（昭和39）年には名張市が生まれて10年目をむかえた記ねんにレコードを作り、みんなに知られるようになりました。



六 ないて夜あかす 山しやう魚の  
なみだやらの  
赤いのはははは

五 滝におわれて せ下る小あゆ  
だれをまたうきを 名張川  
エーエー エンエン  
コリヤア イエンナ コリヤコリヤ

四 あついなさげが とろりとしみる  
赤目また香落の 山見酒  
エーエー エンエン  
コリヤア イエンナ コリヤコリヤ

三 赤目四十八 大下の滝よ  
もみじのにしきを きておちる  
エーエー エンエン  
コリヤア イエンナ コリヤコリヤ

二 赤目香落の 滝つせ川せ  
こよまた河の うれしなき  
エーエー エンエン  
コリヤア イエンナ コリヤコリヤ

一 みどり小をでに かくれてきて  
だれをまつ香落の いわつじ  
エーエー エンエン  
コリヤア イエンナ コリヤコリヤ

ほかにも名張のきせつのようなが入っている「新名張節」や、「ソヤテ ソヤテ ホンマヤテ」と名張の方言が入る「名張小唄」がうたわれています。



名張子どもでんとうげいのうまつり

名張音頭や新名張節、名張小唄のことを多くの人に知ってもらい、うたい、おどってもらうために、「名張音頭保存会」の人たちが、みらいへつたえていく活動をしています。これらのうたやおどりは、名張桜まつりや名張子どもでんとうげいのうまつりではっぴょうされています。

イベントやおまつりにさんかして、いっしょにうたったり、おどったりしてみてはどうですか。

### 鏡池にうつったかみさま (夏見)

むかしむかし、夏見の田んぼでいねかりをしてるとな、「おーい、おーい。」

どこからともなくよぶ声が聞こえてきました。村人はいねかりの手を休めて声をたよりに歩いていくと、池の水にりつぽな白はつじいさんがうつっておったんや。・・・



### 子守りきつね (下比奈知)

むかし、赤んぼうをおんぶしながら、女の人が、山でたきをひろっていたんや。そのうち赤んぼうがねてしまったので、せなかからおろしてたきをあつめたんや。たくさんひろいあつめたんで、それをせなかによつて山を下つていったんや。たきをせ中にしよつていたからか、赤んぼうのことはすっかりわすれてしまつていたんや。・・・



### せんがりの田 (長瀬)

長瀬村の人びとはむかし、長じやともなかがようて、毎日田はたに出でしごとにはげんでおった。それは、ある年のいちばんあつい夏の日のことやったそう。いつものように村のしゅうがしごとに出でみると、おどろいたことに、田んぼの水がすっかりひ上がつていた。ひどいひびわれができて、とても米ができません。・・・



紙しばい



\*一ぶをへんこうして出だしぶ分をのせてあります。  
資料 『なばりの昔話』『続 なばりの昔話』より  
(採話・編集 三重県立名張高等学校郷土研究部)

「語り部」としてつたえつづけている人や、大がた紙しばいを作り、子どもたちにつたえている人たちがいます。

ふるさどにつたわるお話を聞いたり読んだりしてみましょう。

### 3. 名張につたわるむかしばなし

むかしばなしには、それぞれの時だいに生きた人たちのねがいやいのりがこめられています。



### 八幡の弓名人 (八幡)



### 風呂に入るお地藏さん (丈六)



### 頓子地藏 (朝日町・短野)

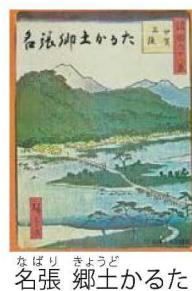
むかし、村の人もうらやむなかのよいふうぶがすんでおった。ただ、子どもができないことだけが、ふうふのなやみのたねであつてな。なんとかして子をさずけてほしいとねがつていた時、一人のおぼうさんがやってきてつげた。「とんこ山の子やす地ぞうにおまいりしなされ。そうすれば、かならず元気な子だからにめぐまれるであらう。」・・・

むかし、赤目の丈六の道ばたに、お地ぞうさんがひとつあつたそうや。あつた夜、村人がお地ぞうさんの前を通りかかったところ、どういいうわけか、お地ぞうさんがおらんようになっていた。  
「ありやあ、おかしいぞ。たしかここにあつたんじゃがなあ。ふしぎなことじゃのう。」・・・

そのむかしの正月十七日、八幡村のわかいしゅうが京都へあそびに行つて、あたごじん社へまいったそうや。じん社でおさむらいさんが弓をいれるんしゅうをやつていましてな。村のしゅうがきようみぶかげに見ぶつしてましたんや。おさむらいさんは弓に矢をつがえて、まどにむけてはなつんやが、へたくそなのかどうにもまどにあたらん。  
「なあんや、なかなかあたたらへんやないか。」・・・

## 4. ふるさとをつたえる「名張郷土かるた」

「名張郷土かるた」は、楽しみながら名張のれきし（むかしのできごと）やむかしからあるものを知ってほしいと考え、1979（昭和54）年、名張青年会議所が作りました。このかるたでは、名張のどうぶつや草木などのしぜんのように、行じ（おまつりなど）、名ぶつなどをうつくしいイラストでしようかいています。名張の子どもたちが、ふるさとをみんなでまもりつづけていく心がそだつように気もちがこめられています。今でも、「子ども名張郷土かるた大会」をひらき、名張のようすをいろいろな人がうけつぎ、つたえていくど力をしています。



したの絵ふだと、上の読みふだを線でつないでみよう。

ふ	武家屋敷、おまげのこす	け	淡路に、おまげのこす	ね	名張をふるまうに、町居は	に	にぎやかな、ハマグリ市は	や	山ざとの、龍口、忍者のいたところ
け		に		ふ		ね		や	

## 5. むかしからつたわる遊び

多くの小学校では、地いきの人から、あやとりなどむかしのあそびを教わり、いっしょに楽しむしゅう会をひらいているようです。どんなあそびがあるのかな？

### (1) おしくらまんじゅう

「おしくらまんじゅう、おされてなくな」の歌声に合わせて、みんなの体と体をふれ合わせてあそぶ冬のあそびの一つです。

そのほかにも体をうごかすあそびや、みのまわりにある道ぐをつかう、いろいろなあそびがありました。



あやとり



### (2) かごめかごめ

おにが目をかくしてまん中にすわり、そのまわりをほかの子がわになって、歌をうたいながらまわります。

うたいおわったときに、おにが自分の後ろにいる人を当てるあそびです。



### (3) お手玉

お手玉は「おじゃみ」ともよばれ、うごきに合わせたとなえ歌をうたいながらあそびます。

あそび方として、お手玉を二つつかい、一つずつなげる「二こゆり」や、三つのお手玉をじゅんばんになげ上げて、りょう手をつかってあそぶ「三こゆり」などがあります。

リズムがよく、はずんでいるような「お手玉かぞえ歌」があり、名張にも、楽しんでうたわっていたかぞえ歌があったようです。

八幡地くにつたわるうた  
おてだま かぞえうた  
一番はじめは一の宮  
二に日光の東照宮  
三はさくらの吉野山  
四はまた信濃の善光寺  
五つ出雲の大社  
六つは村々天神さん  
七つ成田の不動さん  
八つは八幡の八幡さん  
九つ高野の高坊主  
十でところの氏神さん



お手玉



こま

ほかにも「こま」「竹馬」「石けり」など、むかしからつたわるあそびはたくさんあります。おうちの人や地いきの人から、教えてもらって、あそんでみましょう。